

長崎県医師会 ^{ばいどく}梅毒 感染拡大警報 (若者、妊婦が危ない！)

1. 2023年の長崎県の新規梅毒届出件数は147名
(2022年は58名)で、過去最多！

2. 20歳代が全体の40%

- ・男性:20~30代が多いですが、誰でも感染する可能性があります。
- ・女性:20代が多い
- ・妊婦の感染が7名(妊婦が感染すると赤ちゃんにもうつります)

3. 梅毒は予防できる病気です。

- ・不特定多数の方との性行為は控えましょう。
- ・いつものパートナーと異なる相手と性行為を行った場合は、まずは積極的に検査を行いましょう。(無症状感染もあります)
- ・梅毒だけでなく他の性感染症を合併している可能性がありますので、精密検査が必要になる場合があります。
- ・検査は全ての医療機関で検査可能(有料)です。保健所でも検査(無料)も可能です。(検査希望の場合は事前に御相談下さい。)

4. 症状(別紙 ※)

- ・無症状の場合もあります。無症状でも未治療のまま放置していると重い脳や心臓などの病気になる場合があります。

※「ストップ！梅毒プロジェクト」((日本性感染症学会・日本感染症学会・日本化学療法学会・日本環境感染学会・日本臨床微生物学会))作成リーフレット

5. 治療

- ・診断を受けて抗生物質を正しく服用又は筋肉注射をすれば治すことができます。
- ・治療は、内科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、性病科などで可能です。(事前電話で診療可能かご確認ください。)

詳細なデータは、長崎県のホームページにも掲載されております。



増えています。



梅毒

ばいどく

って病気を知っていますか？

セックスでうつる病気です。フェラチオやキスでもうつることがあります。
(梅毒トレポネーマという細菌が原因です)

感染3週間後、唇に「**くぼみ**」ができてきました。



感染3か月後、お腹や全身の皮膚に痛くも痒くもない「**ピンク色の発疹**」が出てきました。



梅毒の症状は「**性器**」に多く現れます。セックスをしてから3～4週間ぐらいで「**しこり**」「**くぼみ**」ができたなら、診察を受けましょう。



梅毒は「偽装の達人」とも呼ばれ、微熱程度の軽い症状だけであつたり、症状がないこともあります。**血液検査**を受けなければわかりません。

性感染症の予防には
コンドームの着用が
不可欠ですが、
それだけでは梅毒は
防げないことがあります。



感染3か月後、手のひらに痛くも痒くもない「**カサカサした斑点**」が出てきました。放っておいても消えますが、病気がすすんでいきます。

「診断には簡単な血液検査が必要です」

「梅毒血清反応検査(梅毒抗体検査)」といいます。症状があってもなくても保健所で無料で相談・検査が受けられます。検査は少量の血液を採取するだけです。

梅毒は、診断を受けて抗生物質を正しく服用すれば治すことができます。治療は皮膚科、泌尿器科、産婦人科などで受けられます。

梅毒と同じ時期に性器ヘルペス・HIV感染症などの病気になることもあります。これらも薬で治療できます。